



あなたの、いちばんであるために。

2014. 4～6月期 No. 026

やましん

中小企業景況レポート

山梨信用金庫 総合企画部
〒400-0032 甲府市中央 1-12-36
TEL 055-225-0213
ホームページアドレス
<http://www.yamasin.jp/>

2014. 7.15 発行

■ 調査要領 ■

1. 調査対象
当金庫営業エリア内の取引先中小企業 120社
2. 調査時期・期間
調査時期：2014年6月2日～6日
調査期間：今期実績 2014年4月～6月
来期見通し 2014年7月～9月
3. 調査方法
当金庫職員による訪問聞き取り調査
4. 分析方法
DIを中心に分析

■ 調査対象と回答状況 ■

業種	企業数	回答数	回答率
製造業	29	29	100%
卸売業	16	16	100%
小売業	15	15	100%
サービス業	29	29	100%
建設業	23	23	100%
不動産業	8	8	100%
合計	120	120	100%

※ 国中地区 73社、東部地区 30社、相模原市周辺地区 17社

※ DI (Diffusion Index) とは

各質問事項で「良い(増加)」とした企業割合－「悪い(減少)」とした企業割合の構成比との差(判断DI)による分析です。
例えば、回答が以下のような場合のDIの算出方法は、次のとおりです。

(例)「良い・やや良い」の回答が50%、「変わらず」の回答が30%、「悪い・やや悪い」の回答が20%の場合

DIは50「良い・やや良い」－20「悪い・やや悪い」＝＋30となります。DI値が高いほど景気が良いことを示しています。

業況判断DI

業種	前期	今期実績			来期見通し		
		良い	悪い	DI	良い	悪い	DI
総合	▲19.3	20.0	26.7	▲6.7	25.8	22.5	3.3
製造業	▲10.7	24.1	37.9	▲13.8	24.1	20.7	3.4
卸売業	▲53.3	20.0	53.3	▲33.3	26.6	33.3	▲6.7
小売業	▲40.0	6.6	33.3	▲26.7	26.7	20.0	6.7
サービス業	▲23.3	26.7	16.7	10.0	30.0	16.7	13.3
建設業	13.0	17.3	13.0	4.3	17.4	26.1	▲8.7
不動産業	▲25.0	12.5	0.0	12.5	37.5	25.0	12.5

業種別景気天気図

業種	前期	今期	見通し
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

※本レポートは、標記時点における情報提供を目的としております。また、掲載資料は、正確性・完全性を保証するものではありません。

31以上	11～30	10～▲10	▲11～▲30	▲30未満

概況

<業況・売上・収益>

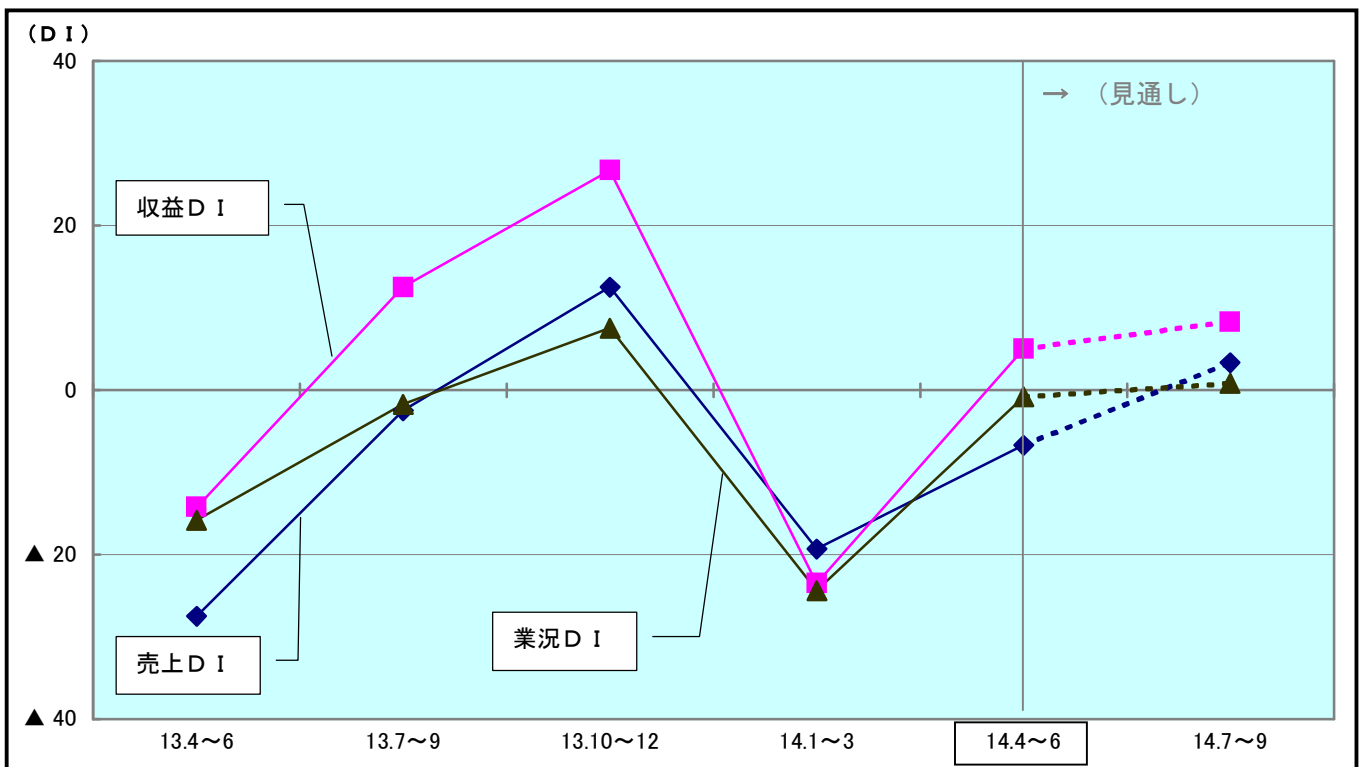
今期（4～6月）の全業種総合の業況判断DI（「良い」－「悪い」）は、前期（1～3月）の▲19.3から12.6ポイント改善の▲6.7となりました（前年同期比20.8ポイント改善）。業種別にみると、製造業・建設業で悪化したものの、その他の業種で改善しております。

また、売上DI（「増加」－「減少」）は、小売業で悪化したものの、その他の業種で改善したことから、前期比28.5ポイント改善の▲5.0となっています（前年同期比19.2ポイント改善）。収益DI（「増加」－「減少」）は、建設業・不動産業で悪化したものの、その他の業種で改善したことから前期比23.6ポイント改善の▲0.8となっています（前年同期比15.0ポイント改善）。

全業種総合の来期見通し（7～9月）は、全体の景況感を表す業況判断DIが3.3と、今期実績比10.0ポイントの改善を見込んでいます。また、売上DIは8.3と、同比3.3ポイントの改善、収益DIは0.8と、同比1.6ポイントの改善を見込んでおります。業種別の業況判断DIは、建設業で悪化を見込んでいるものの、その他の業種で改善を見込んでおります。

■ 業況・売上・収益DIの時系列推移

	13.4～6	13.7～9	13.10～12	14.1～3	14.4～6	14.7～9 見通し
業況 DI	▲27.5	▲2.5	12.5	▲19.3	▲6.7	3.3
売上 DI	▲14.2	12.5	26.7	▲23.5	5.0	8.3
収益 DI	▲15.8	▲1.7	7.5	▲24.4	▲0.8	0.8



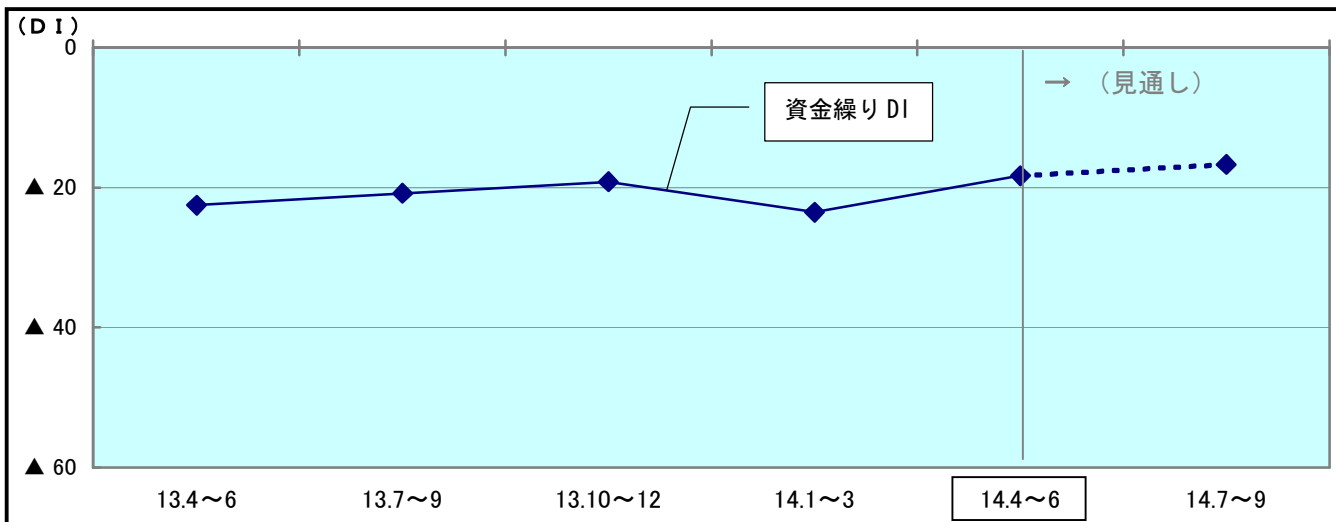
<資金繰り>

資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）は▲18.3と、前期比5.2ポイントの改善となりました（前年同期比4.2ポイント改善）。

また、来期の資金繰りDIは▲16.7と、今期実績比1.6ポイントの改善を見込んでいます。

■ 資金繰りDIの時系列推移

	13.4~6	13.7~9	13.10~12	14.1~3	14.4~6	14.7~9 見通し
資金繰りDI	▲22.5	▲20.8	▲18.3	▲23.5	▲18.3	▲16.7



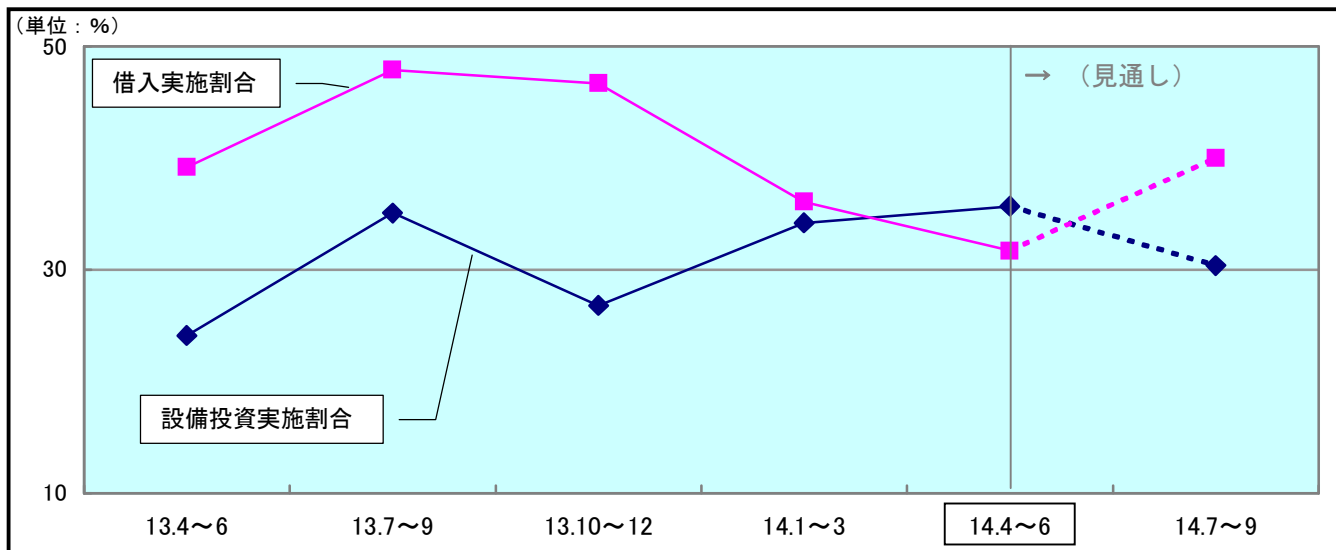
<設備投資・借入動向>

不動産業を除いた設備投資実施企業割合は35.7%と、前期比1.5ポイント上昇しております（前年同期比11.6ポイント上昇）。また、来期の設備投資実施予定企業割合は30.4%と今期実績比5.3ポイントの低下を見込んでいます。

全業種総合の借入実施企業割合は31.7%と、前期比4.4ポイント低下しております（前年同期比7.5ポイント低下）。また、来期の借入実施予定企業割合は40.0%と、今期実績比8.3ポイントの上昇を見込んでいます。

■ 設備投資・借入実施動向の時系列推移

	13.4~6	13.7~9	13.10~12	14.1~3	14.4~6	14.7~9 見通し
設備投資実施割合	24.1%	35.1%	26.8%	34.2%	35.7%	30.4%
借入実施割合	39.2%	47.9%	46.7%	36.1%	31.7%	40.0%



【製造業】

今期の業況判断D Iは▲13.8と、前期（1～3月）と比べて3.1ポイント悪化となりました（前年同期比32.9ポイント改善）。なお、売上D Iは前期比35.5ポイント改善の6.9、収益D Iは同比28.7ポイント改善の▲3.4となっております。

来期（7～9月）の業況判断D Iは3.4と、今期実績比17.2ポイント改善を見込んでいます。また、売上D Iは同比10.3ポイント改善の17.2、収益D Iは同比10.3ポイント改善の6.9を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比14.5ポイント改善の▲3.4、来期は今期実績比6.9ポイント悪化の▲10.3を見込んでいます。

■経営上の問題点（）内は前回順位

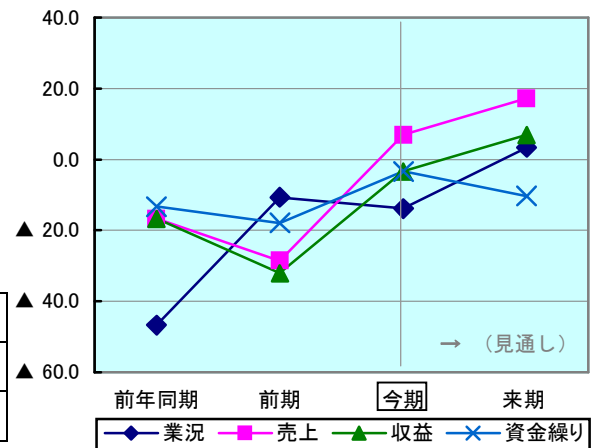
1	売上の停滞・減少(1)	55.2%
2	利幅の縮小(2)	51.7%
3	同業者間の競争激化(3)	34.5%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	62.1%
2	経費の削減(2)	58.6%
3	新製品・技術の開発(3)	31.0%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲46.7	▲10.7	▲13.8	3.4
売上	▲16.7	▲28.6	6.9	17.2
収益	▲16.7	▲32.1	▲3.4	6.9
資金繰り	▲13.3	▲17.9	▲3.4	▲10.3



【卸売業】

今期の業況判断D Iは▲33.3と、前期（1～3月）と比べて20.0ポイント改善となりました。（前年同期比▲6.6ポイント悪化）。また、売上D Iは前期比26.7ポイント改善の▲13.3、収益D Iは同比13.3ポイント改善の▲26.7とすべてのD Iで改善となっております。

来期（7～9月）の業況判断D Iは▲6.7と、今期実績比26.6ポイントの改善を見込んでいます。また、売上D Iは同比20.0ポイント改善の6.7、収益D Iは同比13.4ポイント改善の▲13.3とすべてのD Iで改善を見込んでおります。

今期の資金繰りD Iは、前期比13.3ポイント悪化の▲20.0、来期は今期実績比横ばいの▲20.0を見込んでいます。

■経営上の問題点（）は前回順位

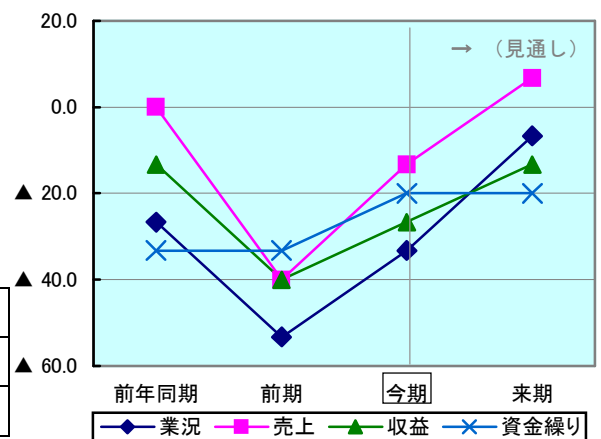
1	売上の停滞・減少(1)	60.0%
2	同業者間の競争激化(2)	53.3%
3	取引先の減少(3)	26.7%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	86.7%
2	経費の節減(2)	60.0%
3	品揃えの充実(3)	26.7%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲26.7	▲53.3	▲33.3	▲6.7
売上	0.0	▲40.0	▲13.3	6.7
収益	▲13.3	▲40.0	▲26.7	▲13.3
資金繰り	▲33.3	▲33.3	▲20.0	▲20.0



【小売業】

今期の業況判断D Iは▲26.7と、前期(1~3月)と比べて13.3ポイント改善となりました。(前年同期比横ばい)。売上D Iは同比6.7ポイント悪化の▲26.7、収益D Iは同比6.7ポイント改善の▲20.0となっております。

来期(7~9月)の業況判断D Iは6.7と、今期実績比33.4ポイントの改善を見込んでいます。売上D Iは同比20.0ポイント改善の▲6.7、収益D Iは同比13.3ポイント改善の▲6.7とすべてのD Iで改善を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比横ばいの▲33.3、来期は今期実績比6.6ポイント改善の▲26.7を見込んでいます。

■経営上の問題点 ()は前回順位

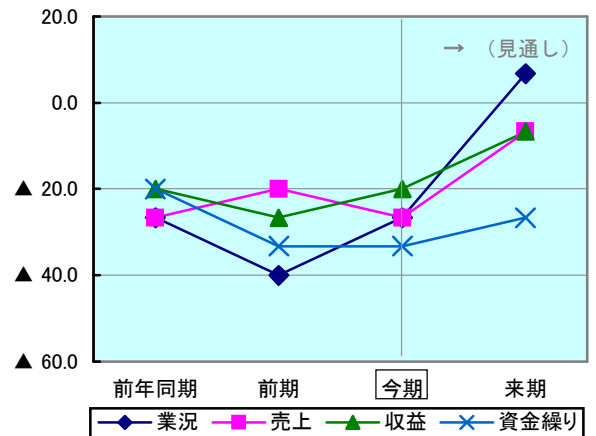
1	売上の停滞・減少(1)	40.0%
2	仕入先からの値上げ要請(3)	33.3%
	利幅の縮小(5)	33.3%
4	同業者間の競争激化(2)	26.7%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減(1)	53.3%
2	宣伝・広告強化(2)	33.3%
3	品揃えの改善(3)	26.7%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲26.7	▲40.0	▲26.7	6.7
売上	▲26.7	▲20.0	▲26.7	▲6.7
収益	▲20.0	▲26.7	▲20.0	▲6.7
資金繰り	▲20.0	▲33.3	▲33.3	▲26.7



【サービス業】

今期の業況判断D Iは10.0と、前期(1~3月)と比べて33.3ポイント改善となりました(前年同期比37.6ポイント改善)。売上D Iは同比46.7ポイント改善の26.7、収益D Iは同比40.0ポイント改善の20.0とすべてのD Iで改善となっております。

来期(7~9月)の業況判断D Iは13.3と、今期実績比3.3ポイントの改善を見込んでいます。また、売上D Iは同比6.6ポイント改善の33.3、収益D Iは同比3.3ポイント改善の23.3とすべてのD Iで改善を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比横ばいの▲16.7となりました。来期は今期実績比13.4ポイント改善の▲3.4を見込んでいます。

■経営上の問題点 ()は前回順位

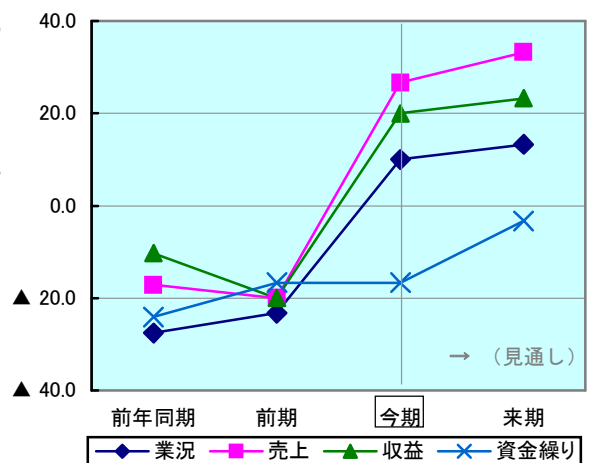
1	売上の停滞・減少(1)	36.7%
	人手不足(5)	36.7%
3	利幅の縮小(1)	33.3%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	50.0%
	経費の節減(2)	50.0%
3	人材の確保(3)	30.0%
	教育訓練強化(4)	30.0%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲27.6	▲23.3	10.0	13.3
売上	▲17.2	▲20.0	26.7	33.3
収益	▲10.3	▲20.0	20.0	23.3
資金繰り	▲24.1	▲16.7	▲16.7	▲3.3



【建設業】

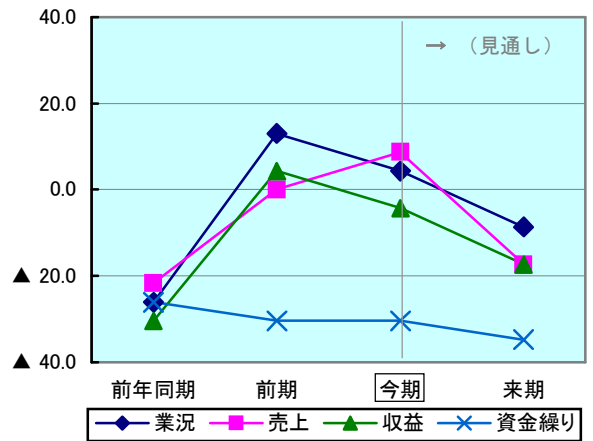
今期の業況判断D Iは4.3と、前期(1~3月)と比べて8.7ポイント悪化となりました(前年同期比30.4ポイント改善)。また、売上D Iは前期比8.7ポイント改善の8.7、収益D Iは同比8.6ポイント悪化の▲4.3となっております。

来期(7~9月)の業況判断D Iは▲8.7と、今期実績比13.0ポイントの悪化を見込んでおります。また、売上D Iは同比26.1ポイント改善の▲17.4、収益D Iは同比13.1ポイント悪化の▲17.4とすべてのD Iで悪化を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比横ばいの▲30.4、来期は今期実績比4.4ポイント悪化の▲34.8を見込んでいます。

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲26.1	13.0	4.3	▲8.7
売上	▲21.7	0.0	8.7	▲17.4
収益	▲30.4	4.3	▲4.3	▲17.4
資金繰り	▲26.1	▲30.4	▲30.4	▲34.8



■経営上の問題点 ()は前回順位

1	材料価格の上昇(1)	47.8%
2	同業者間の競争の激化(2)	34.8%
3	人手不足(4)	30.4%

■当面の重点経営施策

1	技術力の強化(3)	47.8%
2	経費の節減(4)	43.5%
3	販路の拡大(1)	39.1%

【不動産業】

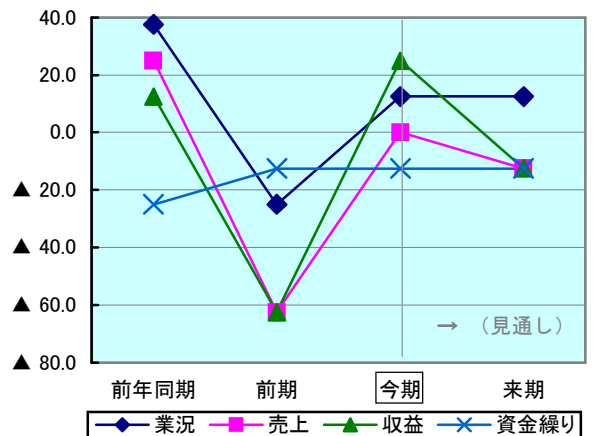
今期の業況判断D Iは12.5と、前期(1~3月)と比べて37.5ポイント改善となりました(前年同期比25.0ポイント悪化)。売上D Iは前期比62.5ポイント改善の0.0、収益D Iは同比87.5ポイント改善の25.0となっております。

来期(7~9月)の業況判断D Iは12.5と、今期実績比横ばいを見込んでおります。売上D Iは同比12.5ポイント悪化の▲12.5、収益D Iは同比37.5ポイント改善の▲12.5を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比横ばいの▲12.5、来期も今期実績比横ばいの▲12.5を見込んでいます。

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	37.5	▲25.0	12.5	12.5
売上	25.0	▲62.5	0.0	▲12.5
収益	12.5	▲62.5	25.0	▲12.5
資金繰り	▲25.0	▲12.5	▲12.5	▲12.5



■経営上の問題点 ()は前回順位

1	売上の停滞(5)	50.0%
	利幅の縮小(1)	50.0%
3	人手不足(2)	37.5%
	商品物件の不足(3)	37.5%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減(2)	62.5%
	情報力強化(1)	62.5%
3	宣伝・広告強化(2)	50.0%
4	販路の拡大(4)	37.5%

<地区別D I の状況>

	国 中 地 区				東 部 地 区				相 模 原 市 周 辺 地 区			
	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期
業況D I	▲35.6	▲22.5	▲11.1	1.4	▲26.7	▲23.3	0.0	▲6.7	▲5.9	0.0	5.9	17.6
売上D I	▲27.4	▲26.8	▲5.6	9.7	▲6.7	▲20.0	26.7	▲3.3	29.4	▲29.4	17.6	17.6
収益D I	▲31.5	▲22.5	▲11.1	▲4.2	3.3	▲33.3	20.0	6.7	17.6	▲17.6	17.6	11.8

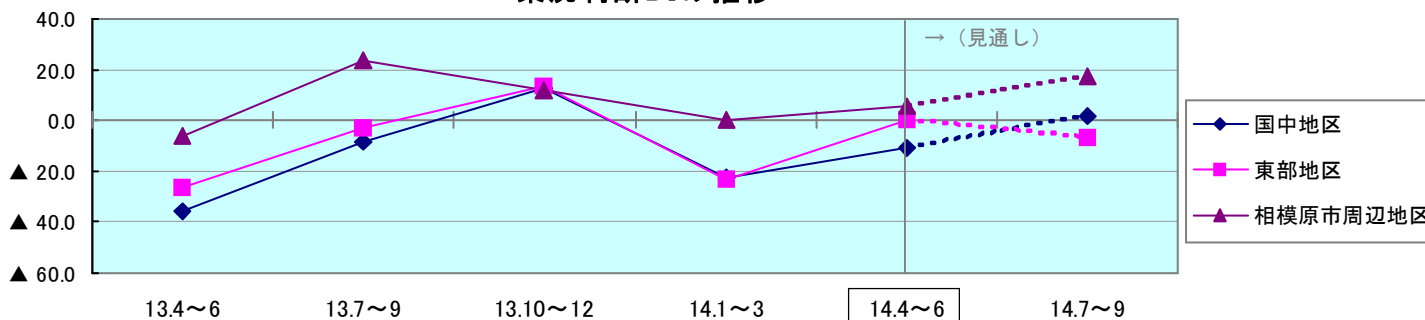
国中地区の状況は、業況判断D Iが▲11.1と、前期（1～3月）の▲22.5から11.4ポイントの改善となりました（前年同期比24.5ポイント改善）。また、売上D Iは前期比21.2ポイント改善の▲5.6、収益D Iは同比11.4ポイント改善の▲11.1とすべてのD Iで改善となりました。なお、来期（7～9月）の業況判断D Iは今期実績比12.5ポイント改善の1.4を見込んでいます。

東部地区の状況は、業況判断D Iが0.0と、前期の▲23.3から23.3ポイントの改善となりました（前年同期比33.4ポイント改善）。また、売上D Iは前期比46.7ポイント改善の26.7、収益D Iは同比53.3ポイント改善の20.0とすべてのD Iで改善となりました。なお、来期の業況判断D Iは、▲6.7と今期実績比6.7ポイントの悪化を見込んでいます。

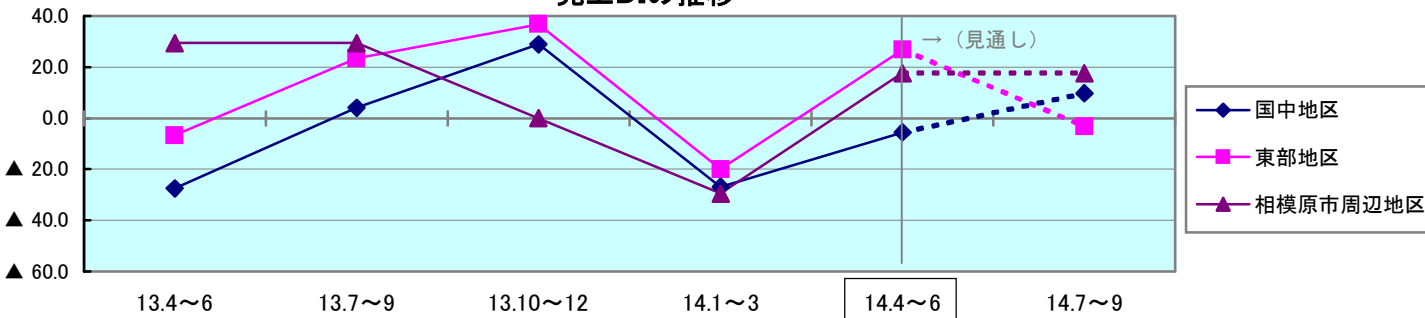
相模原市周辺地区の状況は、業況判断D Iが5.9と、前期の0.0から5.9ポイントの改善となりました（前年同期比11.8ポイント改善）。また、売上D Iは前期比47.0ポイント改善の17.6、収益D Iは同比35.2ポイント改善の17.6となりました。なお、来期の業況判断D Iは17.6と今期実績比11.7ポイントの改善を見込んでいます。

地区別に見た景況感は、すべての地区で改善となりました。なお、来期については国中地区、相模原市周辺地区で改善、東部地区で悪化を見込んでおります。

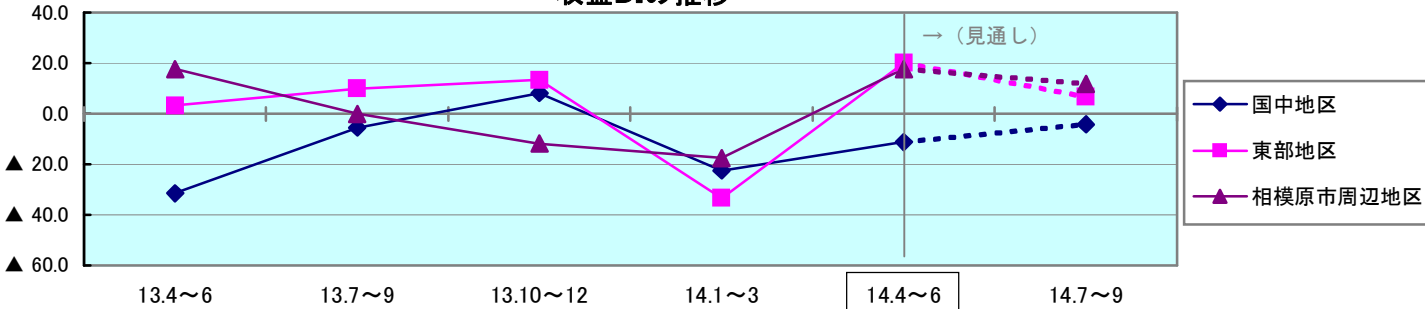
業況判断DIの推移



売上DIの推移



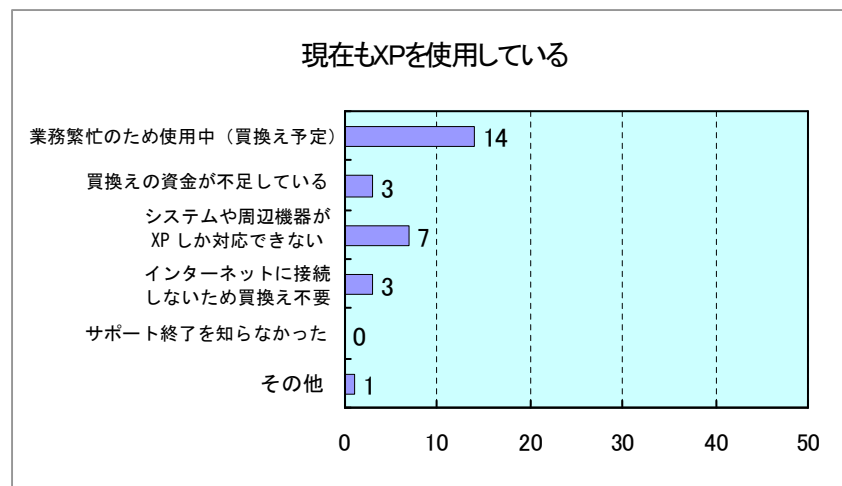
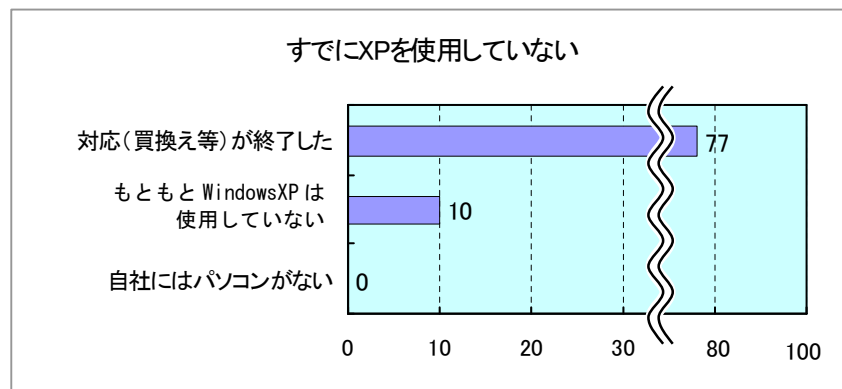
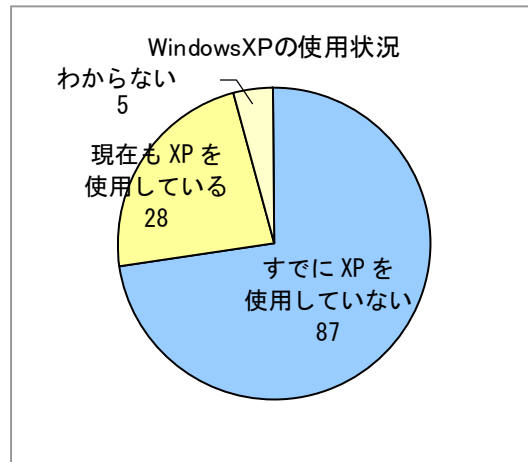
収益DIの推移



特別調査 「中小企業のIT（情報技術）活用について」

◆マイクロソフト社のパソコンの基本ソフト「Windows XP」のサポートが4月に終了し、買換えなどの対応が推奨されています。貴社では、「Windows XP」パソコンを現在も使用していますか。（回答企業数：120社）

（単位：社）

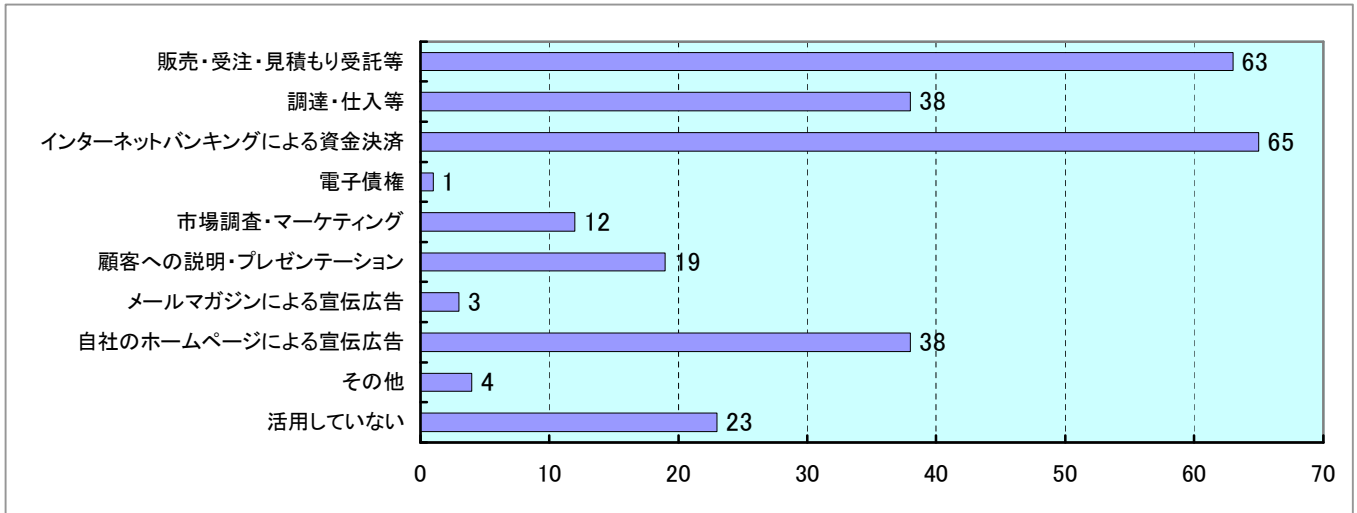


Windows XP の使用状況（6月調査時点）については、「すでにXPを使用していない」との回答が87社（72.5%）、「現在もXPを使用している」との回答が28社（23.3%）となりました。

「現在もXPを使用している」との回答の内訳としては、「業務繁忙のため使用中（買換え予定）」との回答が14社（11.6%）と最も多く、回答の半数を占めており、次いで「システムや周辺機器がXPしか対応できない」との回答が7社（5.8%）と続いております。いずれは買い換える予定にありながらも、調査時点では対応できない企業が多いことがうかがえる結果となりました。

◆貴社では、事業上（販売、調達、資金調達、宣伝広告など）でインターネット（パソコン、スマートフォン、タブレット端末など）を活用していますか。（複数回答可）（回答企業数：120社）

（単位：社）

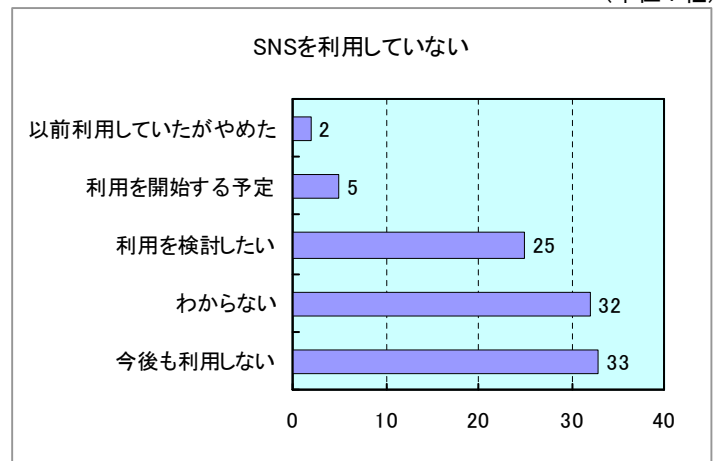
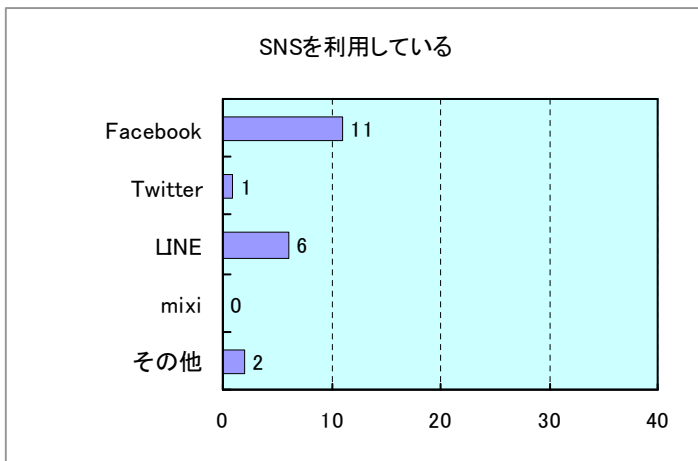


事業上でのインターネットの活用について、「活用している」との回答が97社（80.8%）、「活用していない」との回答が23社（19.2%）となりました。活用方法としては、「インターネットバンキングによる資金決済」との回答が65社（54.1%）と最も多く、次いで「販売・受注・見積もり受託等」が63社（52.5%）、「調達・仕入れ」、「自社のホームページによる宣伝広告」が38社（31.6%）と続いております。

業種別に見ると、サービス業・不動産業で「活用している」割合が他業種に比べて高く、主な活用方法としては、「販売・受注・見積もり受託等」、「自社のホームページによる宣伝広告」となっております。

◆インターネット上の交流を通して社会的ネットワークを構築する「ソーシャルネットワーキングサービス（以下・SNS）」の利用が拡大していますが、貴社では、こうしたSNS等を事業上の情報収集・発信に利用していますか。利用している場合は、最も利用しているものを、利用していない場合は今後の方針についてお答えください。（回答企業数：117社）

（単位：社）

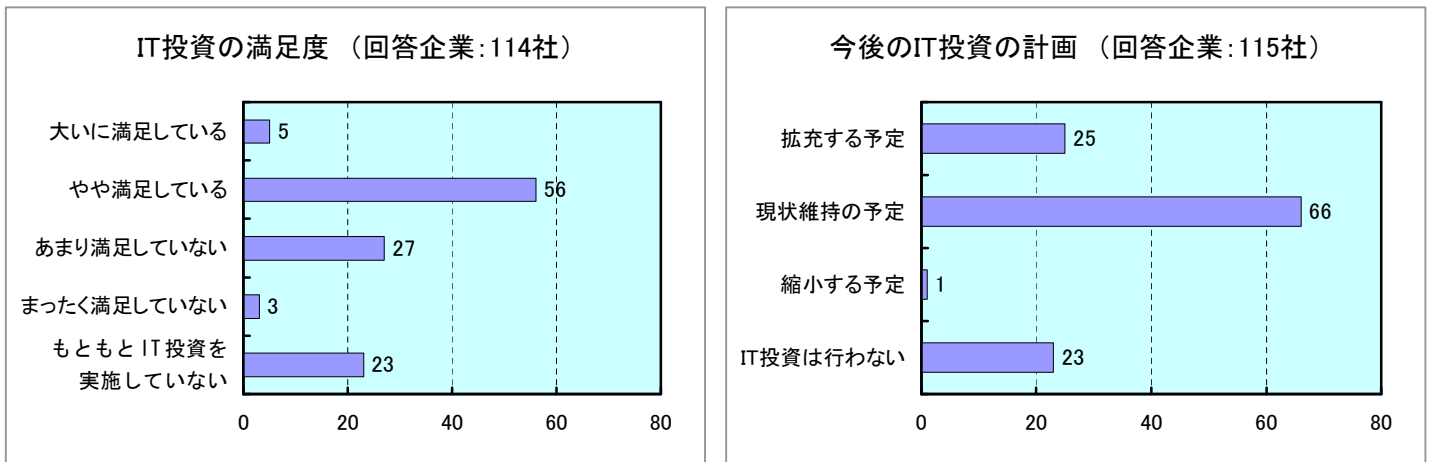


ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の事業上の情報収集・発信への利用状況については、「利用している」との回答が20社（17.1%）、「利用していない」との回答が97社（82.9%）となりました。

最も利用しているSNSについては「Facebook」との回答が11社（9.4%）と最も多く、「利用している」と回答した企業の半数以上を占めております。一方、SNSを利用していない企業の今後の方針については、「利用を開始する予定」「利用を検討したい」との回答が合計で30社（25.6%）あったものの、「今後も利用しない」との回答の33社（28.2%）、「わからない」との回答の32社（27.3%）を下回っており、SNSの利用に消極的な企業が多数を占めることがうかがえる結果となりました。

◆貴社では、これまで行ってきた IT 投資（コンピュータ、ネットワーク関連機器・ソフトウェアの購入、利用環境の整備等全般）の費用対効果について、どのように感じていますか。また、今後の IT 投資の計画についてお答えください。

(単位：社)



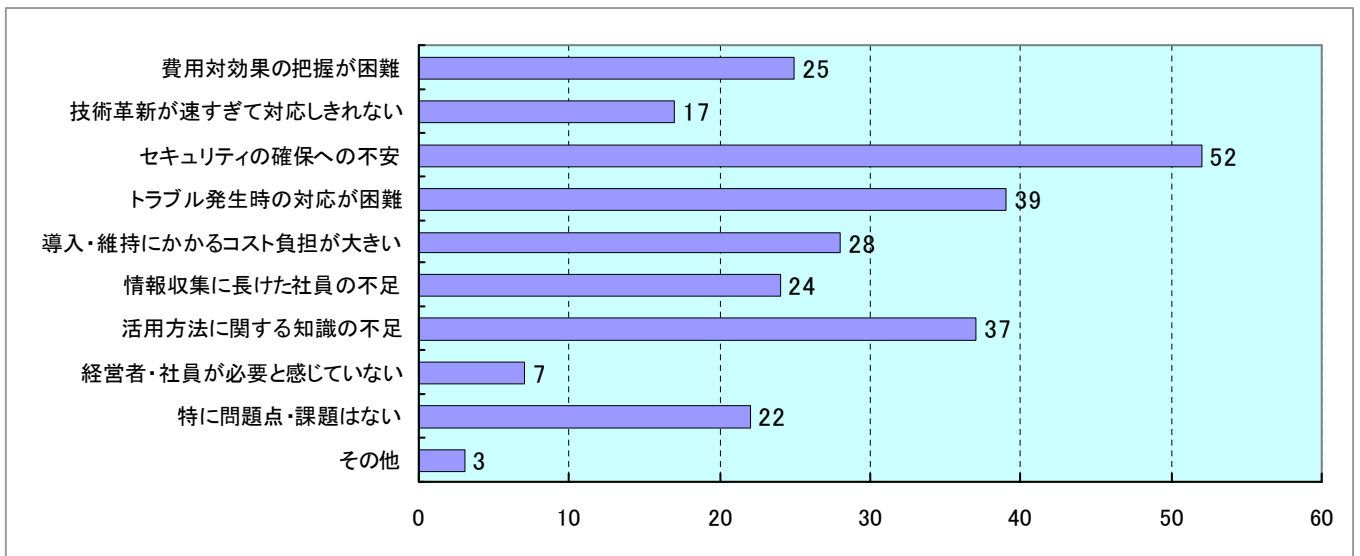
IT 投資の費用対効果については、「大いに満足している」との回答が 5 社 (4.3%)、「やや満足している」との回答が 56 社 (49.1%) と満足している企業が全体の半数を超える結果となりました。

IT 投資の今後の計画については、「拡充する予定」との回答が 25 社 (21.7%) と「縮小する予定」との回答 1 社 (0.8%) を上回る結果となりました。

なお、IT 投資の満足度について「もともと IT 投資を実施していない」との回答が 23 社 (20.1%)、今後の IT 投資の計画について「今後も IT 投資は行わない」との回答が 23 社 (20.0%) と、現在も今後も IT 投資を実施しない企業が一定数存在することがわかる結果となりました。

◆貴社では、IT（情報技術）化を進めるに際しての問題点・課題として、どのようなものが考えられますか。(複数回答可) (回答企業数：120 社)

(単位：社)



IT（情報技術）化を進めるに際しての問題点・課題については、「セキュリティ確保への不安」との回答が 52 先 (43.3%) と最も多く、以下、「トラブル発生時の対応が困難」が 39 先 (32.5%)、「活用方法に関する知識の不足」が 37 先 (30.8%)、「導入・維持にかかるコスト負担が大きい」が 28 先 (23.3%) と続いております。

業種別に見ても全業種で回答の傾向は同様であり、いずれの業種でも「セキュリティ確保への不安」が最も多い回答となっております。

調査員のコメント

製造業

- 取引先からの受注が増加しており、今後も売上増加が見込まれることから、設備投資を計画している。(金属プレス・メッキ・彫刻業・熱処理業)
- 原材料・燃料・光熱費等の価格高騰により経費の増加を余儀なくされており、価格転嫁がままならないため利益率は低下している。特にガソリンの高騰により配送コストが増加しており、収益を圧迫している。(電気機械器具製造業)

卸売業

- 消費増税による反動は続いており、消費マインドの低下等により全体的に売上は減少している。(その他の卸売業)
- 消費増税後も価格を据え置いてきたが、仕入価格高騰等により、販売価格への転嫁を検討せざるを得ない状況にある。(農畜産物・水産物卸売業)

小売業

- 4～6月期の売上は好調であり、来期の見通しも明るい。今後は従業員教育の充実等により競争力をさらに高めていく。(燃料小売業)

サービス業

- 富士山世界遺産の宣伝効果が大きく、海外からの観光客が好調である一方で、日本人観光客は前年比減少傾向にあり、懸念を抱いている。(旅館、その他の宿泊所)

建設業

- 震災復興事業やオリンピック関連を含めた民間投資の拡大が見込まれる中、建設業界は人手不足が深刻化しており、今後の経営課題となっている。(総合工事業)
- 消費増税に伴う原材料・資材の値上がり等により、利幅が縮小している。今後も売上については維持できる見通しであるものの、利幅の確保が課題である。(総合工事業)

不動産業

- 分譲用土地が不足している。消費増税後も住宅地販売に大きな影響は出ていない。(建売業・土地売買業)

編集後記

このたびの中小企業景気動向調査におかれましては、皆様にはお忙しいなか、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

今回の調査では、業況判断DIが前期比12.6ポイントの改善の▲6.7となりました。来期の見通しについては、今期実績比10.0ポイント改善の3.3ポイントを見込んでおります。

また、今回の特別調査ではIT(情報技術)活用についての調査を実施し、調査の中で多くの企業において資金決済にインターネットバンキングを利用していることがわかりました。現在、全国の金融機関で、お客様のパソコンに不正にアクセスし、口座から不正に預金を引き出す被害が発生しております。当金庫においては、26年6月現在、被害は確認されておりませんが、当金庫では、不正アクセスに対し、様々な対策を講じており、インターネットバンキングをご利用の皆様方におかれましても、次頁の注意事項をよくご確認のうえ、ご利用いただきますようよろしくお願い申し上げます。

不正アクセスによる被害にご注意ください

現在、お客様のパソコンをウイルス感染させ、インターネットバンキングのIDや暗証番号等を不正に取得するとともに、お客様に気づかれずにパソコンに侵入し、お客様の口座から不正に預金を引き出す被害が全国の金融機関で発生しています。

お客様におかれましては、不正な引出しを確認された際には、早急に当金庫へ連絡いただくとともに、このようなパソコンのウイルス感染や不正な引き出しの被害発生等を防ぎ、サービスをより安全にご利用いただくため、以下の点にご注意いただきますようお願いいたします。

1. IDや暗証番号（パスワード）は、厳重に管理してください。
IDや暗証番号（パスワード）は、パソコンに保存せずに厳重に管理してください。
暗証番号（パスワード）は、定期的に変更することをおすすめします。
2. セキュリティ対策ソフトをご利用ください。
セキュリティ対策ソフトは、常に最新の状態に更新してご利用ください。
定期的にセキュリティ対策ソフトによるウイルスチェックを実施してください。
3. OSやブラウザは、必ず最新版にアップデートしてご利用ください。
4. ウイルスの感染を防ぐため身に覚えのないメールは開かないでください。
また、不審なホームページにアクセスしないでください。
5. 前回のログイン時間をご確認ください。
身に覚えのないログイン時間である場合は、早急に当金庫へご連絡ください。
6. 取引限度額は必要最小限に設定してください。
その他、注意事項につきましては以下のページをご参照ください。

インターネットバンキングを安全にご利用いただくために

http://www.shinkin.co.jp/info/security_02/index.html

<お問い合わせ先>

> 平日 8:00～17:00
山梨信用金庫 事務集中課
055-225-0212